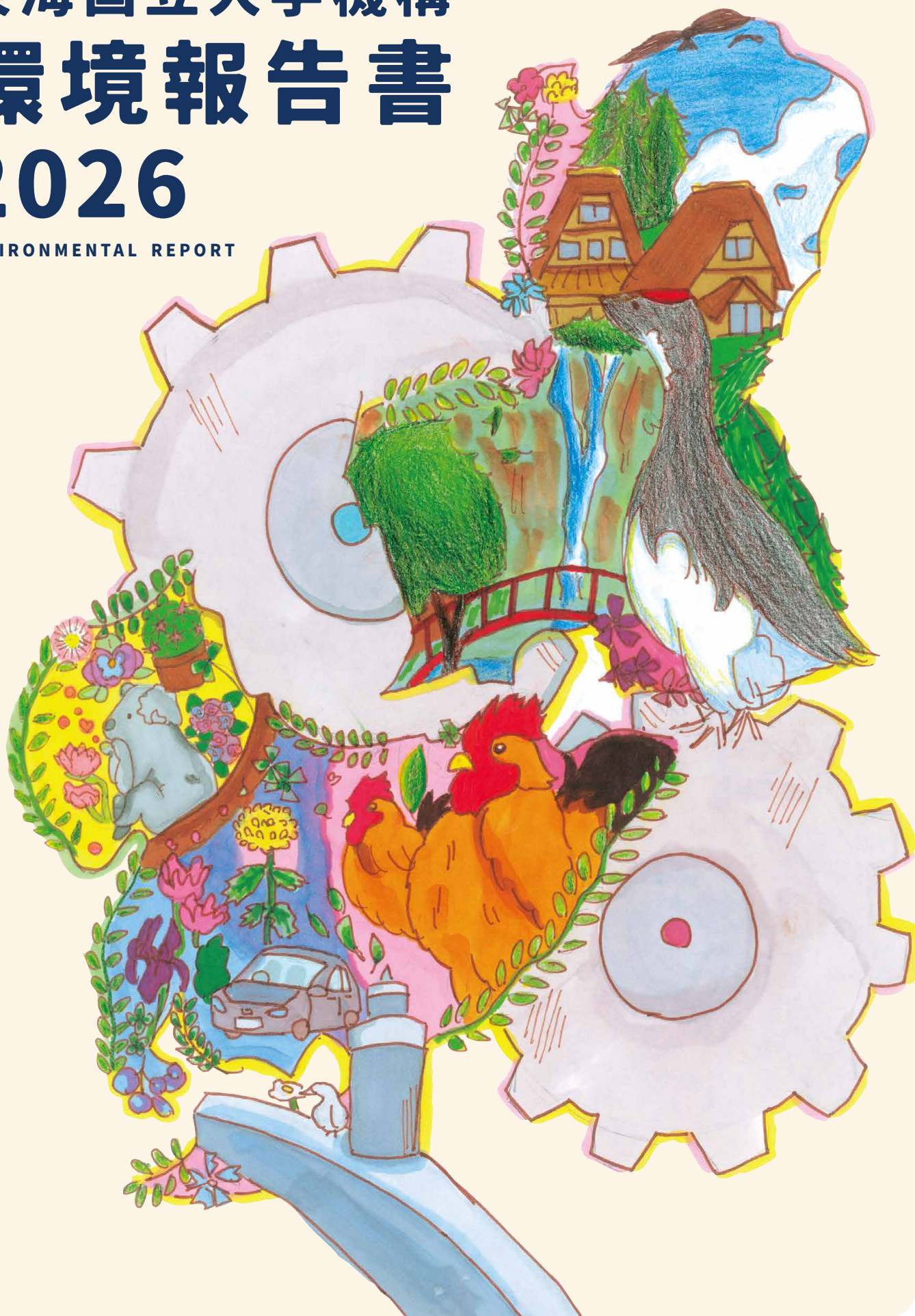


東海国立大学機構 環境報告書 2026

ENVIRONMENTAL REPORT



CONTENTS

機構長あいさつ	1	5 環境に関する社会貢献活動	34
TOPICS	2	オープンイノベーションによる 持続可能な社会の実現へ	34
東海クライマックスシリーズ	2	高校生との環境交流「環境報告書を読んでみよう」	35
飛行ロボット授業優秀機対抗戦！	2	教育グッドプラクティス機構長特別表彰式開催 ～さらなる授業の質向上を目指して～	35
カーボンニュートラル推進室の取組	6	マレーシア・サラワク州における国際セミナー開催 気候変動とエネルギー転換に関するアジア太平洋の視点	36
カーボンニュートラルロードマップ	8	減災館特別企画展「東海豪雨から25年：雨がもたらす 災いと恵みを理解し、変動する気候に適応するために」を開催	37
省エネアクト for ゼロカーボン キャンパスの取組	10	環境マネジメントの取組	38
AWARDS	12	考えようSDGs！エコ活動啓発ポスター・ 川柳コンクール	40
岐阜大学学長・名古屋大学総長 メッセージ	13	ぎふっくらいちよう 学生の活動	40 41
1 東海国立大学機構概要	14	学生編集委員企画	46
CAMPUS MAP	14	6 環境マネジメントデータ	48
2 環境管理体制と環境方針	16	7 評価	54
東海国立大学機構の環境管理体制	16	環境コミュニケーション / 立命館大学	54
環境方針	18	環境コミュニケーション / 日本特殊陶業(株)	55
2025年度の環境活動目標と活動報告	19	第三者評価	56
3 環境研究	20	環境省 環境報告ガイドライン (2018年度版)による項目	57
地熱エネルギー活用のための“詰まらない配管” を実現する DLC コーティング技術	20	地球温暖化対策、持続可能性をめぐる世界、 日本、東海国立大学機構の動き	58
自然・野生動物と人との関係の歴史 から近年の「クマ問題」を考える	22	表紙作品の公募について	60
環境問題への対策の決め方を考える ～「気候市民会議」を対象に～	24	編集後記	60
食品廃棄物処理の“残り”から燃料をつくる	26	環境報告書 2026 編集チーム	61
植物が開花と茎伸長を連動させるメカニズムの解明 ～作物生産性向上による低環境負荷農業を目指して～	28		
ESG に積極的な企業は、なぜ情報開示にも前向きなのか	29		
4 環境教育	30		
現代環境学(キャンパス緑地で 学ぶグリーンインフラ入門)	30		
土壌・水質分析実習	31		
卒業生の活躍	32		

環境報告書の作成にあたって

本報告書は、東海国立大学機構の環境に関する幅広い取組を広く内外に公表することを目的としています。

なお、「環境情報の提供の促進等による特定事業者の環境に配慮した事業活動の促進に関する法律（環境配慮促進法）」に準拠し、環境省の「環境報告ガイドライン（2018年度版）」を参考に作成しています。

また、持続可能な開発目標（SDGs）の「世界を変えるための17の目標」で示されているアイコンに関連する記事に示しています。

(<https://www.env.go.jp/earth/sdgs/index.html>)

- 対象範囲 国立大学法人東海国立大学機構
岐阜大学 柳戸・加納等国内全地区 名古屋大学 東山・鶴舞・大幸・東郷等国内全地区
- 対象期間 2025年4月～2026年3月（但し、一部の内容については対象期間以外の取組も含みます）
- 発行期日 2026年9月30日